

## TWS-NEXT @tobikan 「クレアボヤンス」

2016年2月19日(金)～3月6日(日)  
東京都美術館 ギャラリーB

### ——次世代を担う、注目の若手アーティストの作品が集結！

2001年の開館以来、トーキョーワンダーサイト(TWS)は、若手アーティストの発掘、育成、支援を行ってきました。「TWS-NEXT」は、「TWS-Emerging」やレジデンス・プログラムなど、TWSの事業に参加した若手アーティストを継続的に支援するプログラムです。

2011年に起きた東日本大震災以降、私たちの身の回りを巡る状況は大きく変化しました。今まで気付いていなかったこと、耳を塞いできたこと、見て見ぬ振りをしてきたこと。変わってしまった日常で、多くの見過ごされていたことに、私たちは改めて目を向け始めたのではないのでしょうか。アーティストはそういった社会の現状や変化をいち早く、敏感に感じ取りながら、目には見えない事象を可視化していきます。

本展のタイトルになっている「クレアボヤンス」【clairvoyance】という言葉には透視、千里眼、優れた洞察力などの意味があります。この鋭敏な感覚「クレアボヤンス」を持った5組のアーティストによって作られた作品は、世界を認識するための新たな視点を私たちに提示してくれるのではないのでしょうか。

### ■ 展覧会概要

展覧会名： TWS-NEXT @tobikan 「クレアボヤンス」  
会期： 2月19日(金)～3月6日(日)  
会場： 東京都美術館 ギャラリーB (東京都台東区上野公園 8-36)  
開室時間： 9:30～17:30 (入室は閉室の30分前まで) \*金曜日は20:00まで開室  
入場料： 無料  
主催： 公益財団法人東京都歴史文化財団 トーキョーワンダーサイト  
協力： 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都美術館  
アーティスト： 鎌田友介、three、平川ヒロ、増本泰斗、三原聡一郎  
ウェブサイト： <http://www.tokyo-ws.org>

#### < お問い合わせ >

〒135-0022 東京都江東区三好4-1-1 東京都現代美術館内  
公益財団法人東京都歴史文化財団 トーキョーワンダーサイト  
広報担当：市川、藤井  
TEL: 03-5602-9881 / FAX: 03-5602-9882 / E-mail: [press@tokyo-ws.org](mailto:press@tokyo-ws.org)

## ■ 関連イベント

### ◎アーティスト・トーク

日時： 2月20日(土) 15:00~17:00

会場： 東京都美術館ギャラリーB

## ■ 展覧会のみどころ

**TWS が注目する 80 年代生まれの若手アーティストが、  
私たちの身の回りに存在しながらも目には見えない事象の可視化を試みます！**

だまし絵のような構造でできた立体によって鑑賞者の視覚を揺るがす作品を制作してきた**鎌田友介**。今回は故郷である新潟の石油産業をリサーチして見出した「垂直性」をテーマとした新作に挑みます。群衆と個に対する関心を元に様々な素材を用いて表現を行う福島県出身の3人組 **three** は、東日本大震災から5年経った福島の今を映し出し、私たちの社会に残された問題について考えます。**平川ヒロ**はベルリンで出会ったウイグル人との対話や彼の故郷を巡り採集したものをもとに展示を構成。体験を通して対象を理解しようとする試みから言語だけに頼らないコミュニケーションの可能性を問いかけます。エネルギーを巡る問題を、有機物を用いて探るプロジェクトを行っている**三原聡一郎**は、苔玉の作品によって日常空間の中に微妙な差異を生み出し、私たちの概念を覆す驚きを喚起させます。**増本泰斗**は社会を成立させている制度やそこに漂う空気を読みかえることによって、私たちの常識を解きほぐし、新しい価値観や物の見方を投げかけます。



三原聡一郎 《コスモス》苔、土、電極、モータ 2015

## ■ 出展作家

### ①鎌田友介 | Yusuke Kamata

#### 2010年「TWS-Emerging 2010」参加

1984年神奈川県生まれ。2012年東京藝術大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻修了。

その場所が持つ空間的特性や歴史的背景をリサーチし、2次元と3次元の間を行き来しながら、空間の中で再構成する作品を制作している。

主な個展に「D Construction Atlas」(京都芸術センター、2014)、「D Construction」(児玉画廊、京都、2013)、「クリテリオム 86 D Structure Atlas」(水戸芸術館、2013)、「Dimension Distortion Destruction」(資生堂ギャラリー、東京、2012)、「Other Perspectives」(TWS本郷、2010)など。



《D construction Atlas》2014

### ②three

#### 2011年「TWS-Emerging 2011」参加

1986年福島県生まれ。2009年に結成された3人のグループ。

群集と個に対する関心を、フィギュアや魚型のしょうゆ差しなど身近なプロダクトを用いて、視覚化していく作品を制作している。

主な個展に「three is a magic number 11」(西武渋谷店、東京、2015)、「three is a magic number 9」(MICHEKO GALERIE、ミュンヘン、2014)、「three is a magic number 4」(資生堂ギャラリー、東京、2012)「three is a magic number 3」(TWS本郷、2011)など。「トーキョーワンダーウォール公募2010」立体・インスタレーション作品部門にて大賞受賞、「第5回タグポートアワード」にてグランプリを受賞(ターナーギャラリー、東京、2010)。



《RAW》2012

### ③平川ヒロ | Hiro Hirakawa

#### 2010年「TWS-Emerging 2010」参加

1984年佐賀県生まれ。2009年愛知県立芸術大学美術学部油画科卒業。ベルリン芸術大学造形芸術専攻在籍。

日常の様々な対象への疑問を、対話や体験を元にひとつひとつ確認する行為から作品を制作している。

主な個展に「楽園創造(パラダイス)―芸術と日常の新地平― Vol.1」(Gallery α M、東京、2013)、「よじのぼったネズミと、くぐりぬけようとするネコ」(Taka Ishii Gallery Kyoto、2011)、「となりの部屋のうそつき」(TWS本郷、2010)などがある。「トーキョーワンダーウォール公募2009」平面作品部門にて大賞受賞。



《確認されたキャンバス(Trupan city)》  
2015

#### ④増本泰斗 | Yasuto Masumoto

##### 2010年 La Chambre Blanche (ケベック) レジデンス・プログラム推薦

1981年広島県生まれ。2006年東京工芸大学大学院芸術学研究科メディアアート専攻修了。

ゲームのような遊戯的なワークショップを行い、身体を通して社会的な問題について考えるプロジェクトを展開。

主な展覧会に「Positive Space」(時代美術館、広州、2014)、個展「場所との対話」(アートスペースジューソー/13、大阪、2013)、個展「クリテリオム 83」(水戸美術館、茨城、2012)、「No Soul For Sale」(Collective Parasolとして参加、テート・モダン、ロンドン、2010)など。



《Protection》2010

#### ⑤三原聡一郎 | Soichiro Mihara

##### 2013年二国間交流事業プログラム〈ベルリン〉参加

1980年東京都生まれ。2006年情報科学芸術大学院大学卒業。

音響やテクノロジーを使用した作品を通して、空白く>=未だ残された問いに対する答えを探す行為を行っている。

主な展覧会に「札幌国際芸術祭 2014」(札幌芸術の森美術館、2014)、個展「空白に満ちた世界」(クストラウム・クロイツベルク/ベタニエン、ベルリン、ドイツ、2013)、「サウンドアート展 芸術の音としてのアート」(ZKM、カールスルーエ、ドイツ、2012)など。「プリ・アルストロニカ 2015」にて入選(アルスエレクトロニカ・センター、リンツ、2015)、「第18回文化庁メディア芸術祭」にて優秀賞受賞(国立新美術館、東京、2014)。



《空白のプロジェクト#3 コスモス》2015



## ■ 広報用画像

### 鎌田友介



《D construction Atlas》 2014



《D construction Atlas》 2013



《D cube(reverse)》 2012

### three



《RAW》 2012



《Untitled》 2013



《Eat Me》 2012

### 平川ヒロ



《確認されたキャンパス (Trupan city)》  
2015



《背中のお客様》 2013



《机上に開いて読んでいること》 2013

増本泰斗



《Protection》2010



《Blue, Red, White and Yellow》2011



《テーブルの脚》2012-2014

三原聡一郎



《コスモス》2015



《を越えるための余白》2013



《鈴》2014